

者と義人の爾曹が見てろを見んと云たりしを見ても爾曹が聞てこそ聞てと
 を得ざりき故に爾曹播種の譬を聽天國の教を聞て悟りざれば惡鬼さたりて其心に播れたる種を奪ふ
 是路の旁に播れたる種あり穢地に播れたる種あり是教を聽て速かに喜ひ受れども己に根なけれバ實時の
 み教の爲に患難あるひり追らるる事の起る時ひ忽ち道に墮つ者ありまた糠の中に播れたる種は是教を
 聽ども此世の患難と貨財の憂に教を蔽れて實らざる者なり沃壤に播れたる種は是教を聽て悟り實を結
 こそ或ひ百倍あるひり六十倍あるひり三十倍する者あり○また譬を彼等に示して曰ける天國の人
 に譬種を播に似たり人々の寝たる間に其敵きたり麥の中に稗子を播て去り苗は出でて實たるとき稗
 子も現れたり主人の僕きたりて曰けるい主よ畑にの美種を播ざりしか如何して稗子ある乎僕に曰け
 る人敵人これを行ひ僕主人に曰ける然らば我僕ゆきて之を抜あつむるに宜か否かうらへ爾曹稗子
 を抜あつむらんとて麥をも共に拔べし收穫まで二ながら長おけ我かりいれの時まづ稗子を拔集て焚ん爲
 之を束ね麥をバ我が倉に收よと種者に言ん○また譬を彼等に示して曰ける天國の赤種カカシの如し人これ
 を取て畑に播百萬の種よりハ小けれども長てハ他の實より大にして天空の鳥きたり其枝に宿候空の樹
 とさる也○また譬を彼等に語ける天國の葡萄の如し畑にこれをとり三十の務の中に穢せバ悉く匪獲す
 なりイエス譬をもて凡て此等の事を衆人に語たまへり譬にわらざれば語り難しこれ預言者に託て
 我譬を設て口を啓き世の始より隠たる事を言出さんと云れたるに應せん爲なり○遂にイエス衆人を歸
 して堂に入り其弟子きたりて曰ける畑の稗子の譬を我僕に解たまへ之に答て曰けるい美種を播者の
 人の子あり畑にこの世界あり美種は是天國の諸子あり稗子は惡魔の子類あり之をまく敵ハ惡魔なり

カ 本四十四 卷六十一
 目 本一八二 卷五十一
 目 本一〇六 卷二十一
 目 本一〇三 卷二十一
 目 本一〇二 卷二十一
 目 本一〇一 卷二十一
 目 本一〇〇 卷二十一
 目 本九九 卷二十一
 目 本九八 卷二十一
 目 本九七 卷二十一
 目 本九六 卷二十一
 目 本九五 卷二十一
 目 本九四 卷二十一
 目 本九三 卷二十一
 目 本九二 卷二十一
 目 本九一 卷二十一
 目 本九〇 卷二十一
 目 本八九 卷二十一
 目 本八八 卷二十一
 目 本八七 卷二十一
 目 本八六 卷二十一
 目 本八五 卷二十一
 目 本八四 卷二十一
 目 本八三 卷二十一
 目 本八二 卷二十一
 目 本八一 卷二十一
 目 本八〇 卷二十一
 目 本七九 卷二十一
 目 本七八 卷二十一
 目 本七七 卷二十一
 目 本七六 卷二十一
 目 本七五 卷二十一
 目 本七四 卷二十一
 目 本七三 卷二十一
 目 本七二 卷二十一
 目 本七一 卷二十一
 目 本七〇 卷二十一
 目 本六九 卷二十一
 目 本六八 卷二十一
 目 本六七 卷二十一
 目 本六六 卷二十一
 目 本六五 卷二十一
 目 本六四 卷二十一
 目 本六三 卷二十一
 目 本六二 卷二十一
 目 本六一 卷二十一
 目 本六〇 卷二十一
 目 本五九 卷二十一
 目 本五八 卷二十一
 目 本五七 卷二十一
 目 本五六 卷二十一
 目 本五五 卷二十一
 目 本五四 卷二十一
 目 本五三 卷二十一
 目 本五二 卷二十一
 目 本五一 卷二十一
 目 本五〇 卷二十一
 目 本四九 卷二十一
 目 本四八 卷二十一
 目 本四七 卷二十一
 目 本四六 卷二十一
 目 本四五 卷二十一
 目 本四四 卷二十一
 目 本四三 卷二十一
 目 本四二 卷二十一
 目 本四一 卷二十一
 目 本四〇 卷二十一
 目 本三九 卷二十一
 目 本三八 卷二十一
 目 本三七 卷二十一
 目 本三六 卷二十一
 目 本三五 卷二十一
 目 本三四 卷二十一
 目 本三三 卷二十一
 目 本三二 卷二十一
 目 本三一 卷二十一
 目 本三〇 卷二十一
 目 本二九 卷二十一
 目 本二八 卷二十一
 目 本二七 卷二十一
 目 本二六 卷二十一
 目 本二五 卷二十一
 目 本二四 卷二十一
 目 本二三 卷二十一
 目 本二二 卷二十一
 目 本二一 卷二十一
 目 本二〇 卷二十一
 目 本一九 卷二十一
 目 本一八 卷二十一
 目 本一七 卷二十一
 目 本一六 卷二十一
 目 本一五 卷二十一
 目 本一四 卷二十一
 目 本一三 卷二十一
 目 本一二 卷二十一
 目 本一一 卷二十一
 目 本一〇 卷二十一
 目 本九 卷二十一
 目 本八 卷二十一
 目 本七 卷二十一
 目 本六 卷二十一
 目 本五 卷二十一
 目 本四 卷二十一
 目 本三 卷二十一
 目 本二 卷二十一
 目 本一 卷二十一

收穫の世の末あり抑者ハ天の使等なり 稗子の敏て火に焚る如く此世の末に於ても此の如くなるべし
 人の子らの僕たちを遣して其國の中より凡て踏躓となる者また惡をあす者を斃て之を爐の火に投入
 べし其處にて哀哭切齒すること有ん 此と云義人の其父の國に於て日の如く輝かん耳わけて聽ゆる者ハ
 聽べし○また天國の畑に種たる實の如し人みいださば之を秘し喜び歸り其所有を盡く買てその畑を買
 あり○また天國の好眞珠を求めんとする商人の如し一の銀たかき眞珠を見出さばその所有を盡く買て
 之を買なり○また天國の海に投て各様の魚をとる網の如し既に盈れバ岸に曳きあげ坐てその喜ものを
 黒にいれ惡ものを棄るあり 世の末に於ても此の如ならん天の使等いでて義者の中より惡者を取わけ
 之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん ○イエス彼等に曰けるい此事をみか悟じや彼に
 曰けるいよ自然 イエス彼等に曰けるい然ハ天國について教られたる學者ハ新しき物と舊き物とを其庫
 より出す家の主の如し ○イエスこの譬を言畢て此を去ぬ 彼の故土にいたり會堂に於て教して人々をか
 曰けるい此人の智慧と異ある能ハ何處より来るや これ木匠の子にからずや其母ハマリアの兄弟ハヤ
 コブヤセシモンニズに非ずや 彼の等ハみな我僕と信に在に非ずや然るに此人の凡て此等の事ハ何處
 より來じや 遂に厭て之を棄 イエス彼等に曰けるい預言者ハ其故土の家の外に於て覺まれざるこどな
 し 彼等が信するこどなきに由て多の異なる能を此に行給とざりき
 其こ分封の君ハロバニエスの聲名を聞て うの僕に曰けるハバテラスのヨハナなり
 彼死より廻りたり故に異ある能を行ふあり 前にヘロアの兄弟ピリポの妻ヘロアヤの事に出てヨハナ
 を捕へ縛て獄に入たり 此ハヨハナヘロアに此婦を娶るに宜しからずと云しに因 彼ヨハナを殺さんと

カ 本四十四 卷六十一
 目 本一八二 卷五十一
 目 本一〇六 卷二十一
 目 本一〇三 卷二十一
 目 本一〇二 卷二十一
 目 本一〇一 卷二十一
 目 本九九 卷二十一
 目 本九八 卷二十一
 目 本九七 卷二十一
 目 本九六 卷二十一
 目 本九五 卷二十一
 目 本九四 卷二十一
 目 本九三 卷二十一
 目 本九二 卷二十一
 目 本九一 卷二十一
 目 本九〇 卷二十一
 目 本八九 卷二十一
 目 本八八 卷二十一
 目 本八七 卷二十一
 目 本八六 卷二十一
 目 本八五 卷二十一
 目 本八四 卷二十一
 目 本八三 卷二十一
 目 本八二 卷二十一
 目 本八一 卷二十一
 目 本八〇 卷二十一
 目 本七九 卷二十一
 目 本七八 卷二十一
 目 本七七 卷二十一
 目 本七六 卷二十一
 目 本七五 卷二十一
 目 本七四 卷二十一
 目 本七三 卷二十一
 目 本七二 卷二十一
 目 本七一 卷二十一
 目 本七〇 卷二十一
 目 本六九 卷二十一
 目 本六八 卷二十一
 目 本六七 卷二十一
 目 本六六 卷二十一
 目 本六五 卷二十一
 目 本六四 卷二十一
 目 本六三 卷二十一
 目 本六二 卷二十一
 目 本六一 卷二十一
 目 本六〇 卷二十一
 目 本五九 卷二十一
 目 本五八 卷二十一
 目 本五七 卷二十一
 目 本五六 卷二十一
 目 本五五 卷二十一
 目 本五四 卷二十一
 目 本五三 卷二十一
 目 本五二 卷二十一
 目 本五一 卷二十一
 目 本五〇 卷二十一
 目 本四九 卷二十一
 目 本四八 卷二十一
 目 本四七 卷二十一
 目 本四六 卷二十一
 目 本四五 卷二十一
 目 本四四 卷二十一
 目 本四三 卷二十一
 目 本四二 卷二十一
 目 本四一 卷二十一
 目 本四〇 卷二十一
 目 本三九 卷二十一
 目 本三八 卷二十一
 目 本三七 卷二十一
 目 本三六 卷二十一
 目 本三五 卷二十一
 目 本三四 卷二十一
 目 本三三 卷二十一
 目 本三二 卷二十一
 目 本三一 卷二十一
 目 本三〇 卷二十一
 目 本二九 卷二十一
 目 本二八 卷二十一
 目 本二七 卷二十一
 目 本二六 卷二十一
 目 本二五 卷二十一
 目 本二四 卷二十一
 目 本二三 卷二十一
 目 本二二 卷二十一
 目 本二一 卷二十一
 目 本二〇 卷二十一
 目 本一九 卷二十一
 目 本一八 卷二十一
 目 本一七 卷二十一
 目 本一六 卷二十一
 目 本一五 卷二十一
 目 本一四 卷二十一
 目 本一三 卷二十一
 目 本一二 卷二十一
 目 本一一 卷二十一
 目 本一〇 卷二十一
 目 本九 卷二十一
 目 本八 卷二十一
 目 本七 卷二十一
 目 本六 卷二十一
 目 本五 卷二十一
 目 本四 卷二十一
 目 本三 卷二十一
 目 本二 卷二十一
 目 本一 卷二十一

二六二六路六

二六二七路六

二六二八路六

二六二九路六

二六三〇路六

二六三一路六

二六三二路六

二六三三路六

二六三四路六

二六三五路六

二六三六路六

二六三七路六

二六三八路六

二六三九路六

二六四〇路六

二六四一路六

二六四二路六

二六四三路六

二六四四路六

二六四五路六

二六四六路六

二六四七路六

二六四八路六

二六四九路六

二六五〇路六

二六五一路六

二六五二路六

二六五三路六

二六五四路六

二六五五路六

二六五六路六

二六五七路六

二六五八路六

二六五九路六

二六六〇路六

二六六一路六

二六六二路六

二六六三路六

二六六四路六

二六六五路六

二六六六路六

二六六七路六

欲て氏とこれを預言者とするにより彼等を懼たりしが

へロデの女を嫁に取らば

に舞をなしし

の爲に予ることを命じ

之をその母に捧たり

をさけ舟に登て其處を去らばし

を見て之を懼み其病者を醫せり

や遣し諸邑に往て自ら食を求むせ

ら之に食を予よ

に手ぬ

りき

れバ

の四地さう

て懼れ叫たり

からバ

浪の上を歩たれど

二六六八路六

二六六九路六

二六七〇路六

二六七一

二六七二

二六七三

二六七四

二六七五

二六七六

二六七七

二六七八

二六七九

二六八〇

二六八一

二六八二

二六八三

二六八四

二六八五

二六八六

二六八七

二六八八

二六八九

二六九〇

二六九一

二六九二

二六九三

二六九四

二六九五

二六九六

二六九七

二六九八

二六九九

二七〇〇

二七〇一

二七〇二

二七〇三

二七〇四

二七〇五

二七〇六

二七〇七

二七〇八

二七〇九

を執て曰ける

を拜し曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

二七〇九

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

二七一〇

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

を執て曰ける

らんとすまた人何を以て其生命に易んや。されん人の子ハ父の榮光を以てその僕等と偕に來らん其諸君の行
 によて報ゆべし。試み爾曹に告ん人の子ハ國を以て來るを買まてハ此に立ものし中に死ざる者あるべ
 し。

第六日の後イエスマテラヨコテの兄弟ヨハナを以て高田小登り給し。彼等の前ハ
 て其容貌かたより其面目の如く輝き其衣ハ白く光れり。モレセニヨリ現れてイエスマと偕小語ぬ。ペテロ
 答てイエスに曰けるハ主よ我儕之に居入善し。尊旨亦滿は。我儕に三の處を建てたまへ。ハ王のため
 一ハキーレのため一ハエリヤの爲にせん。如此のいへる時かやける雲かからを蔽ふ雲より出て言ける
 ハ此ハ我旨に遵ふわが僕子亦ハ爾曹之れに聽べし。弟子之れを聞て大にかろれ倒れ伏たり。イエスマ來り
 て彼等ハ手を接おき。懼る。勿れと曰ければ。其目を擧し。惟イエスの聲か一人をも見ざりき。○山を
 下る時にイエス彼等に命じて人の子の死より廻るまでハ爾曹の見し事を人ハ告べからず。と云り。その弟
 子とよて曰けるハ然ハエリヤハ先に來べし。と學者の云るハ何や。イエスマ答て曰けるハ實にエリヤハ來
 して舊事を改むべし。然ハ我ハ今んがらに告んエリヤハ既に來し。人これを知す。た。意の任に彼を待へ。ハ此
 の如く人の子もまた彼等より舊觀を受べし。是に於て弟子ハブラマのヨハナを指て曰た。主へるを憐れ
 り。○彼等亦はく人の居どころに來し。或ハイエスの所にきたり。曉き。曰けるハ主よ我子を憐れみたま
 へ。痛にて屢々火に倒れ水に倒れ甚だ難めり。之を爾の弟子に携任れ。た。心醫す。とを得ざりき。イエス
 答て曰けるハ。心醫亦き。曲れる世ある哉。われ何時まで爾曹と偕に居んや。我いつまで爾曹を忍んや。彼を我も
 とに携來れ。遂にイエスマ鬼を斥め給へ。鬼いで。其子この時より愈たり。其とき弟子ハ。カにイエスに

マ太九〇七
 九〇八
 九〇九
 九一〇
 九一一
 九一二
 九一三
 九一四
 九一五
 九一六
 九一七
 九一八
 九一九
 九二〇
 九二一
 九二二
 九二三
 九二四
 九二五
 九二六
 九二七
 九二八
 九二九
 九三〇
 九三一
 九三二
 九三三
 九三四
 九三五
 九三六
 九三七
 九三八
 九三九
 九四〇
 九四一
 九四二
 九四三
 九四四
 九四五
 九四六
 九四七
 九四八
 九四九
 九五〇
 九五二
 九五三
 九五四
 九五五
 九五六
 九五七
 九五八
 九五九
 九六〇
 九六一
 九六二
 九六三
 九六四
 九六五
 九六六
 九六七
 九六八
 九六九
 九七〇
 九七一
 九七二
 九七三
 九七四
 九七五
 九七六
 九七七
 九七八
 九七九
 九八〇
 九八一
 九八二
 九八三
 九八四
 九八五
 九八六
 九八七
 九八八
 九八九
 九九〇
 九九一
 九九二
 九九三
 九九四
 九九五
 九九六
 九九七
 九九八
 九九九
 一〇〇〇

來り曰けるハ我儕これを送出すこと難し。と云り。何故や。イエスマ彼等に曰けるハ爾曹信なきが故。亦り我
 ること。に爾曹告ん。も。本種の如き。信ある。此處より。彼處。亦。移れ。命。も。必。ず。移らん。又。な。ん。ぢ。ら
 能ざる。こと。無。る。べ。し。然。と。此。類。ハ。祈。禱。と。斷。食。に。非。ざ。れ。ば。出。る。こと。な。し。○。ガ。ラ。サ。ヤ。を。周。徧。と。シ。イ。エ。ス
 彼等に曰けるハ。人の子。人の手。解され。かつ。殺。され。て。第三日。甦。る。べ。し。弟子。之。れ。を。聞。て。甚。だ。哀。れ。り。○
 彼等。カ。ペ。サ。ウ。ツ。に。來。れる。と。き。納。金。を。集。る。者。と。も。ペ。テ。ロ。に。來。て。曰。け。る。ハ。爾。曹。の。師。ハ。納。金。を。出。さ。さ。る。手。然
 乎。と。曰。て。ペ。テ。ロ。家。に。入。じ。と。シ。イ。エ。ス。と。云。つ。彼。に。曰。け。る。ハ。シ。モ。ン。爾。ハ。如何。も。ハ。と。云。ふ。と。世界。の。王。た。ち。我。お。よ。び
 責。を。誰。よ。り。徵。か。け。り。か。他。の。者。よ。り。か。ペ。テ。ロ。彼。に。曰。け。る。ハ。他。の。人。よ。り。徵。か。り。イ。エ。ス。彼。に。曰。け。る。ハ
 然。ハ。予。ハ。與。る。こと。亦。し。然。と。彼。等。を。覆。か。せ。ざる。爲。に。爾。海。に。往。て。釣。を。垂。よ。初。に。つ。る。魚。を。取。て。その。口。を。閉。か
 べ。金。二。を。得。べ。し。其。を。取。て。我。と。爾。の。爲。に。彼。等。に。納。よ。

其。とき。弟子。イ。エ。ス。に。來。て。曰。け。る。ハ。天。國。に。於。て。大。なる。者。ハ。誰。や。イ。エ。ス。聖。見。を。召。か。れ。ら。の。中
 に。居。て。曰。け。る。ハ。我。ま。ご。と。に。爾。曹。に。告。ん。も。し。改。ま。り。て。聖。見。の。若。く。は。天。國。ハ。入。こ。す。を。得。べ。し。然。ハ。凡
 う。の。聖。見。の。若。く。は。自。ら。謙。る。者。ハ。此。天。國。に。於。て。大。なる。者。ナリ。又。わ。が。名。の。爲。に。此。の。如。き。一。人。の。聖。見。を。接
 る。者。ハ。我。を。接。る。か。り。然。と。我。を。信。する。此。小子。の。一。人。を。覆。か。す。る。者。ハ。磨。石。を。う。の。頸。に。懸。ら。れ。て。海。の。深。に。沈
 ら。れ。ん。方。な。は。益。なる。べ。し。此。世。ハ。爾。亦。か。す。る。事。を。す。れ。ば。な。り。覆。か。す。る。事。ハ。必。ず。來。らん。然。と。覆。か。す。る
 ら。ず。者。ハ。爾。亦。か。す。る。事。を。す。れ。ば。な。り。若。し。爾。の。手。な。ん。ぢ。の。足。危。の。れ。を。覆。か。さ。ば。斷。て。之。を。棄。て。兩。手。兩。足。わ。り。て。盡。さ。る。火。に。投
 入。ら。れ。た。よ。り。ハ。脚。さ。た。ハ。殘。缺。に。て。生。に。入。り。善。なり。も。し。爾。の。眼。か。ば。拔。出。して。之。を。棄。て。兩。眼
 わ。り。て。地。獄。の。火。に。投。入。ら。れ。ん。よ。り。一。眼。に。て。生。か。入。り。善。か。り。○。爾。曹。の。小子。の。一。人。を。も。憤。み。て。輕。蔑。な

マ太九〇七
 九〇八
 九〇九
 九一〇
 九一一
 九一二
 九一三
 九一四
 九一五
 九一六
 九一七
 九一八
 九一九
 九二〇
 九二一
 九二二
 九二三
 九二四
 九二五
 九二六
 九二七
 九二八
 九二九
 九三〇
 九三一
 九三二
 九三三
 九三四
 九三五
 九三六
 九三七
 九三八
 九三九
 九四〇
 九四一
 九四二
 九四三
 九四四
 九四五
 九四六
 九四七
 九四八
 九四九
 九五〇
 九五二
 九五三
 九五四
 九五五
 九五六
 九五七
 九五八
 九五九
 九六〇
 九六一
 九六二
 九六三
 九六四
 九六五
 九六六
 九六七
 九六八
 九六九
 九七〇
 九七一
 九七二
 九七三
 九七四
 九七五
 九七六
 九七七
 九七八
 九七九
 九八〇
 九八一
 九八二
 九八三
 九八四
 九八五
 九八六
 九八七
 九八八
 九八九
 九九〇
 九九一
 九九二
 九九三
 九九四
 九九五
 九九六
 九九七
 九九八
 九九九
 一〇〇〇

